

# 定期作況報告

令和3年7月  
(7月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

6月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は高かった。降水量は平年より少なく（平年比40%）、日照時間は多かった（平年比182%）。

7月上旬：最高気温は平年並で、最低気温はやや高く、平均気温は平年並であった。降水量は平年より少なく（平年比4%）、日照時間は平年並であった（平年比99%）。

7月中旬：最高気温、最低気温は、平均気温とも平年より極めて高かった。降水量は平年より少なく、（平年比26%）、日照時間は多かった（平年比152%）。

以上のことから、この1か月間（6月下旬～7月中旬）は、気温は極めて高く、降水量は少なく、日照時間は多かった。

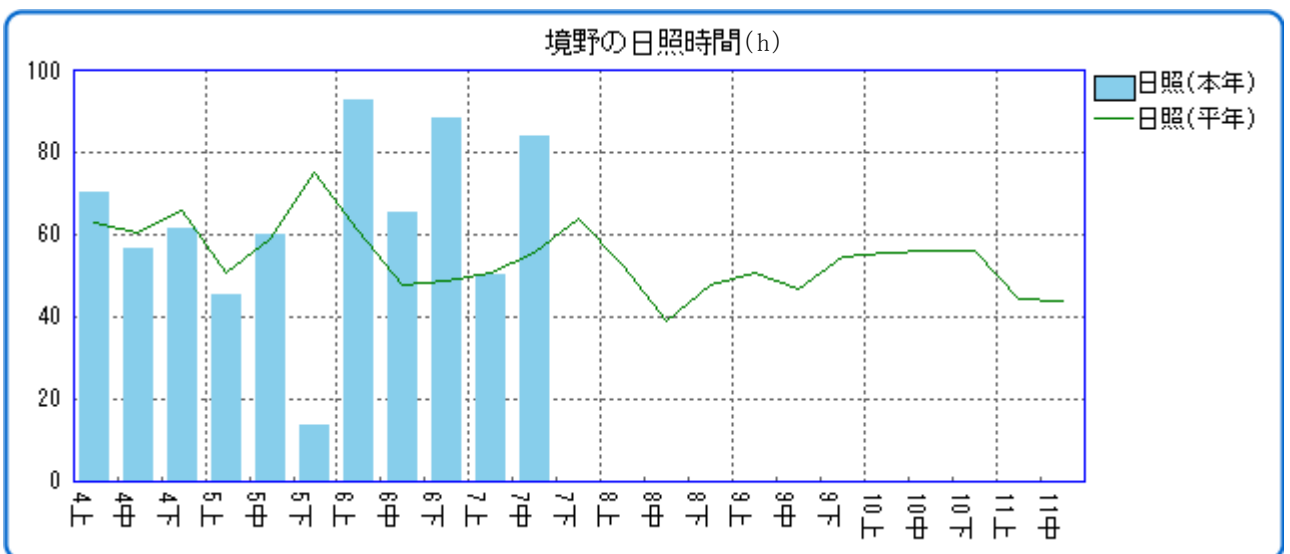
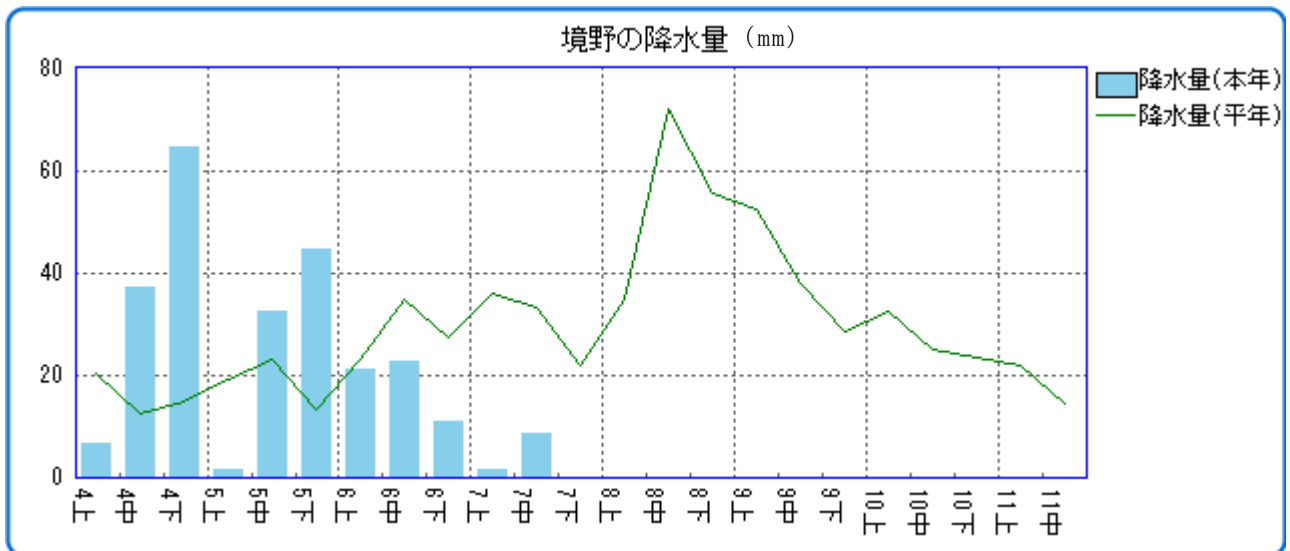
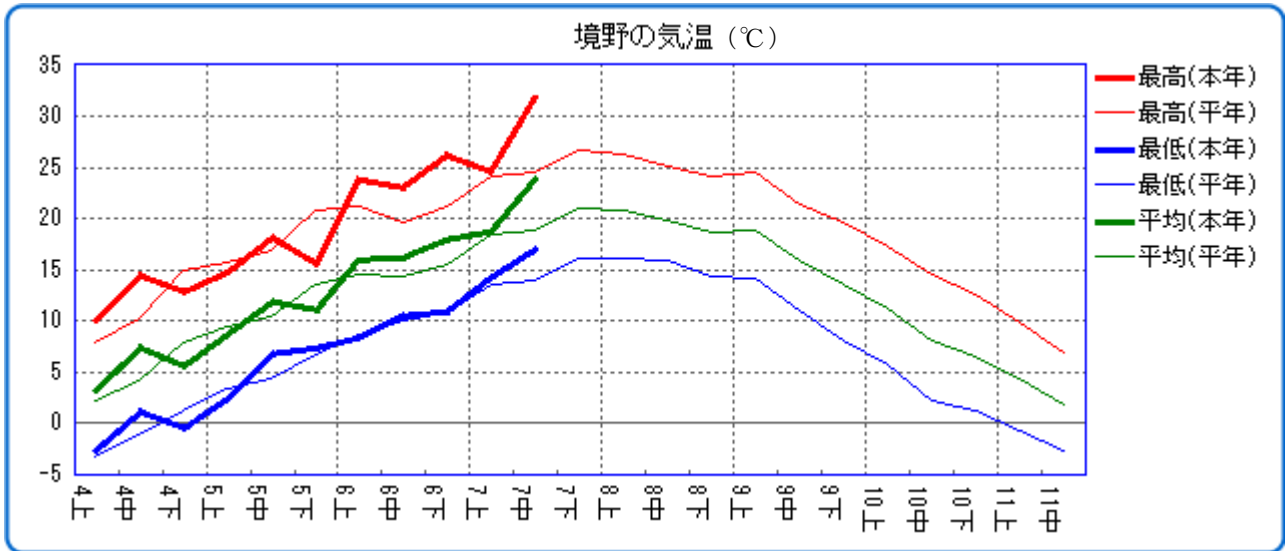
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	17.9	15.5	2.4	26.1	21.1	5.0	10.9	10.7	0.2
7月 月上旬	18.6	18.5	0.1	24.5	24.2	0.3	14.2	13.6	0.6
7月 中旬	23.8	18.8	5.0	31.8	24.5	7.3	16.9	14.0	2.9

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
6月 下旬	11.0	27.2	-16.2	88.5	48.7	39.8
7月 月上旬	1.5	36.0	-34.5	50.4	50.7	-0.3
7月 中旬	8.5	33.2	-24.7	84.2	55.5	28.7

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 秋まき小麦 作況：やや良

事由：登熟期間の6月中旬以降、気温は高く、降水量が少なく推移したため、登熟は極めて早まり、成熟期は平年より5日早い7月19日であった。登熟期間は平年より7日短かった。稈長、穂長は平年並で、穂数は多い。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	きたほなみ		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (7月20日)	82	80	2
穂長(cm) (7月20日)	8.5	8.5	0.0
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	825	690	135
成熟期 (月.日)	7.19	7.24	△5

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) 春まき小麦 作況：やや不良

事由：出穂期は平年より4～5日遅かった。稈長、穂長は平年よりやや長く、穂数は平年より少なかった。7月19日の降雨によって「春よ恋」で倒伏が発生した。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
出穂期 (月.日)	6/24	6/20	4	6/23	6/18	5
稈長(cm) (7月20日)	100	96	4	99	93	6
穂長(cm) (7月20日)	8.8	8.3	0.5	8.2	7.9	0.3
穂数(本/m <sup>2</sup> ) (7月20日)	516	664	△148	554	672	△118

注) 平年値は前7か年中、平成27年(最豊)、29年(最凶)を除く5か年の平均。

3) とうもろこし (サイレージ用)

作 況 : 平年並

事 由 : 6月下旬から7月中旬にかけては平年に比べて高温多照で経過したものの、降水量が少なく、7月20日現在の草丈は175.4cm、葉数は13.0枚でいずれも平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	175.4	176.6	△1.2
葉数(枚) (7月20日)	13.0	12.9	0.1

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

4) 大 豆

作 況 : やや良

事 由 : 高温多照傾向が続いたため生育が進み、本葉数と分枝数は平年を上回り、主茎長もやや上回った。開花始は7月15日で、平年より6日早かった。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.15	7.21	△ 6
主茎長(cm) (7月20日)	50.4	49.1	1.3
本葉数(枚) (7月20日)	8.1	7.3	0.8
分枝数(本/株) (7月20日)	5.3	4.3	1.0

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 5) 小豆

作況：平年並

事由：高温多照傾向が続いたため生育が進み、本葉数と分枝数は平年を上回ったが、著しい干ばつにより主茎長は平年を下回った。開花始は「きたろまん」で平年より4日早かった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモシヨウズ			きたろまん		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	—	7.24	—	7.20	7.24	△ 4
主茎長(cm) (7月20日)	18.0	19.9	△ 1.9	15.7	18.7	△ 3.0
本葉数(枚) (7月20日)	8.0	6.6	1.4	7.9	6.2	1.7
分枝数(本/株) (7月20日)	2.6	2.3	0.3	2.1	1.8	0.3

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

## 6) 菜豆

作況：やや不良

事由：高温多照傾向が続いたため生育が進み、開花始は平年より4日早い7月6日だった。著しい干ばつにより生育はやや抑制され、草丈はほぼ平年並だが本葉数と分枝数は平年より少なかった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
開花始 (月.日)	7.6	7.10	△ 4
草丈(cm) (7月20日)	35.5	36.2	△ 0.7
本葉数(枚) (7月20日)	3.1	4.0	△ 0.9
分枝数(本/株) (7月20日)	3.7	5.6	△ 1.9

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

7) ばれいしょ 作 況：やや不良

事 由：開花始は両品種ともに平年並であった。茎数は平年並であったが、6月上旬以降、7月上旬を除いて気温は極めて高く、また降水量は少なく土壌が乾燥していたため、茎長は両品種ともに平年を大きく下回った。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
開花始 (月・日)	6.29	6.29	0	7.3	7.4	△1
茎長(cm) (6月20日)	44	55	△11	62	75	△13
茎数(本/株) (6月20日)	4.9	4.4	0.5	2.7	2.9	△0.2

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

8) てんさい 作 況：やや良

事 由：この1か月間は、気温が平年より高く日照時間も多かったため、生育は順調に推移した。移植では、この1か月の少雨の影響で地上部の生育がやや抑制されているものの、根重および根周はやや平年を上回っている。一方、直播では少雨の影響はなく、草丈、茎葉重、根重は平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (7月20日)	47.3	53.0	△5.7	46.9	52.9	△6.0	48.5	48.1	0.4
生葉数(枚) (7月20日)	18.1	18.6	△0.5	21.0	20.2	0.8	16.1	15.6	0.5
茎葉重 (g/個体) (7月20日)	483	503	△20	551	551	0	445	338	107
根重 (g/個体) (7月20日)	365	253	112	426	265	161	212	113	99
根周(cm) (7月20日)	24.3	21.7	2.6	26.1	23.0	3.1	20.5	16.1	4.4

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

9) 牧草(チモシー)

作況: やや不良

事由: 6月中旬以降、高温多照寡雨傾向が続き、特にこの1か月の降水量は平年比27%と少なかった。そのため、2番草再生時の草丈は平年より10 cm短かった。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	なつちから		
	本年	平年	比較
被度(%) 2番草再生時(7/9)	100	100	0
草丈(cm) 2番草再生時(7/9)	29	39	△10

注) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。